（２０） にんじん

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 黒葉枯病 *Alternaria dauci*	1.連作を避ける。 2.低湿地での作付けを避け、圃場の排水を良好にする。 3.肥切れしないように、肥培管理を徹底する。 4.収穫後は茎葉を集めて処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●種子消毒（吹付処理） 1.ダコニール１０００の吹き付け処理は、種子消毒機を使用する。 ●発病初期 1.本病対象にストロビーフロアブルで防除を実施しているところでは、うどんこ病の発生が少ない。 2.本病対象に銅水和剤(コサイド3000、Ｚボルドー)で防除を実施しているところでは、疫病、斑点細菌病、軟腐病の発生が少ない。 3.本病対象にポリオキシンＡＬ水和剤で防除を実施しているところでは、菌核病の発生が少ない。	播種前（種子粉衣）	2	ロブラール水和剤
			M7	ベルクート水和剤
		播種前（吹付処理）	M5	ダコニール１０００
		発病初期	2	ロブラール水和剤
			7	アフェットフロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	ストロビーフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			19	ポリオキシンＡＬ水和剤
			P7	アリエッティ水和剤
			M1	コサイド３０００
			M1	Ｚボルドー
			M1	ＩＣボルドー６６Ｄ
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	クミガードＳＣ
			M3	ペンコゼブ水和剤
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			11･7	(混)シグナムＷＤＧ
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
2 うどんこ病 *Erysiphe heraclei*	1.多肥栽培は控え、間引きを早めに行う。 2.被害茎葉は集めて圃場外で処分する。 3.圃場周辺のセリ科雑草を処分する。	発病初期	3	トリフミン水和剤
			7	アフェットフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			M1	ヨネポン水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
3 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.連作を避け、４～５年間イネ科作物を栽培する。 2.排水を良好にする。 3.被害株は早期に除去する。 4.管理作業で根や茎葉を傷つけないよう注意する。	発病初期	31	スターナ水和剤
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
4 根腐病 *Rhizoctonia solani*	1.罹病植物残さは圃場外に持ち出し、処分する。 2.連作を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－	ガスター ド微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
		播種前	14	リゾレックス粉剤
			11･4	(混)ユニフォーム粒剤
5 しみ腐病 *Pythium sulcatum* *Globisporangium violae*	1.連作を避ける。 2.圃場の排水を良好にする。 3.罹病植物残さは圃場外に持ち出し、処分する。 4.発育適温が28℃付近にあるので、春夏に発生が多い。 5.収穫適期を過ぎると発病を助長するので、収穫は適期に行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	キルパー
			－	バスアミド微粒剤
			－	ガスター ド微粒剤
			－･－	(混)ソイリーン
			－･－	(混)ダブルストッパー
		播種前	11･4	(混)ユニフォーム粒剤
		発病初期	11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
6 菌核病 *Sclerotinia intermedia* *S. sclerotiorum*	1.発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って圃場外で処分する。 2.連作を避ける。	発病前から	7	アフェットフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			M7	ベルクートフロアブル

にんじん

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 斑点病 *Cercospora carotae*	1.本病は、７～９月に多発するので、梅雨明け前から薬剤散布を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.黒葉枯病の防除を行っている圃場では、本病の発生は少ない。	発生初期	2 7 7 11 11 M1 M7	ロブラール水和剤 アフェットフロアブル カナメフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ストロビーフロアブル ヨネポン水和剤 ベルクートフロアブル
8 アブラムシ類 （モザイク病 ＣｅＭＶ ＣＭＶ）	1.病株は早期に処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤー顆粒水和剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤で防除を実施している圃場では、ヒメフタテンヨコバイの発生が少ない。	発生初期	1B 4A 4A 4A	マラソン乳剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤
9 ネキリムシ類	1.発生密度が低いときは、被害株の近くの土を掘って幼虫を捕殺する。	生育初期	1B 3A 22B	ネキリエースK ガードベイトA アクセルベイト
10 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若齢幼虫期	13 18	コテツフロアブル ロムダンフロアブル
11 キアゲハ	1.幼虫は見つけしだい捕殺する。	若齢幼虫期	18	ロムダンフロアブル
		発生期	13	コテツフロアブル
12 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	若齢幼虫期	5 11A 11A 11A 11A 11A 11A 22B UN	ディアナSC バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 フローバックDF エコマスターBT サブリナフロアブル アクセルフロアブル プレオフロアブル
13 マメハモグリバエ	1.周辺雑草を除草する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期 1.アファーム乳剤で防除を実施した圃場では、ハスモンヨトウの発生が少ない。	播種時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	5 6	スピノエース顆粒水和剤 アファーム乳剤
14 ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	1.被害株の間引きを行う。 2.輪作を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.クロールピクリンは、ケラにも登録がある。 3.キルパー、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤は、ネコブセンチュウのみに登録がある。	土壌消毒	8B 8B 8B 8F 8F 8F 8A･8B 8A･8B	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤 キルパー ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 （混）ソイリーン （混）ダブルストッパー
		播種前	1A 1B	バイデートL粒剤 ネマトリンエース粒剤